

令和4年度

石巻市教育委員会の活動状況に関する

点検及び評価報告書

(令和3年度実績)

令和4年7月

石巻市教育委員会

令和4年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価の実施について

1 事業の概要及び目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」とあり、実施に当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの」と規定されております。

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価報告書を公表することにより、市民に対する教育行政の説明責任を果たすとともに、適正かつ効率的な教育行政の運営に資することを目的とします。

2 根拠法令

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価実施要綱（平成20年教育委員会訓令第7号）

3 令和4年度 点検評価実施内容について

(1) 点検・評価の対象事業について

令和3年度に実施した「石巻市教育振興基本計画実施計画」の掲載事業のうち、将来に渡り長期的に継続していくべき事業、子どもの安全・安心のため重点的に取り組むべき事業として、学校教育分野で8事業、社会教育・保健体育分野で2事業の合計10事業を選定しました。

(2) 点検・評価の方法について

選定した事業について事業調査票を作成し、令和3年度における実施状況及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、本報告書を取りまとめました。

本報告書については、市議会第3回定例会に提出するとともに、市ホームページに掲載し、公表いたします。

令和4年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する
点検及び評価 対象事業一覧

番号	担当課	事業名
1	学校教育課	サイエンスラボ事業
2	学校教育課	「心の教育」推進事業（いじめ、暴力行為の防止）
3	学校教育課	国際理解教育推進事業
4	学校教育課	特別支援教育支援員配置事業
5	学校教育課	適応指導教室運営事業
6	学校教育課	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業
7	学校安全推進課	学校防災推進事業
8	学校管理課	校舎等整備事業
9	生涯学習課	協働教育推進事業
10	図書館	読書環境整備事業

**令和4年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する
点検及び評価に係る意見聴取会**

1 開催日時 令和4年7月5日（火） 午後1時30分開会

2 開催場所 本庁舎6階 議会第1・2委員会室

3 学識経験者 3名

氏 名	役 職 等
田 中 秀 典 氏	石巻専修大学人間学部人間教育学科特任教授
佐 藤 文 夫 氏	元石巻市立石巻小学校校長
吉 田 和 美 氏	特定非営利活動法人 にじいろクレヨン

4 意見聴取会の進め方

番号	内 容
1	・意見聴取会手順の確認 進行手順について事務局より説明
2	・事業内容の説明 「令和4年度（令和3年度事業対象）教育委員会の活動状況に関する点検及び評価資料」の事業調査票について ① 事業目的、事業効果及び現状と課題 ②実施状況及び評価（CHECK）③課題・改善（ACTION）の順に担当課から説明
3	・質疑応答 学識経験者から実施状況等について質問を受け、担当課より回答
4	・学識経験者からの意見聴取
※ 1事業ごとに番号2～4を繰り返し行う	
5	・学識経験者から全体を通しての総括的意見を聴取
6	・学識経験者の意見の反映 意見を付した報告書をまとめ、教育委員会において審議

5 学識経験者からの意見

○ 総括的意見について

田 中 秀 典 氏

行政として、この10事業は継続していきたい、拡充もしていきたいという意思を汲み取りました。

一貫して私が言い続けたことは、それぞれの部署の方は、大変知恵を絞っていろいろな事業展開をしていることがこれから読み取れました。それぞれの課ではすばらしいアイデアが多くあると思いますので、それを見極めて進めていく視点が大事だと思います。

事業も同一レベルにいたら見えないものも、上から見るといい切込口を見つけることができます。行政の方に言えば、いろいろな切込口があるけれど、ものの見事に割れるというところを見つけた方の能力が高いということになると思います。

二点目ですが、それを見極めて、統制したい、順位を付けたい、その順序性とか順位制とか、それから先の読みとか、そこの重み付けをしていくのが、教育長の役割だと思います。

三点目は、これらの事業の内容を臨機応変にお金を掛けずに市民に知らせていただきたい。

佐 藤 文 夫 氏

新型コロナウイルス感染拡大の繰り返しなど目まぐるしく状況の変化する中で、各事業を進めることは大変で、そして、難しい判断に迫られて、実施に当たっては、並々ならない苦労があることが分かりました。

10事業の総合評価を見ますと、C評価となったのは、特別支援教育支援員配置事業です。支援を要する児童の数が令和2年度には28名、3年度には100名の増加に拡大し、更に拡大する状況が伺えるということです。

令和3年度より毎年、3名ずつ増員を進める計画により拡充を図っており、令和6年度以降は100名の配置とするということですが、拡大の状況によっては更なる増員が考えられるのではないかと思います。

また、増員だけでなく、支援員と担任教員の資質の向上、担任教員と支援員の連携に向けた研修などが実践されているのか心配なところです。

支援員の資質、それに対応する教職員との連携ということもあり、各学校でいかに話し合いを進め、実践への研修を行う共同作業がうまくいっているかが大事だと思います。

学校教育課でも先進事例の研究を進めているので、それを情報発信することで、学校にとってはすごく役立つものと思います。

A評価のサイエンスラボ事業、学校防災推進事業、協働教育推進事業も本当に充実

した事業として成果を上げており、そのまま続けていただきたい。

理科教育の充実、それから、安心安全な学校環境づくり、そして、教育全体で子どもたちを育む教育改革推進、これは大事なことです。

協働教育推進事業については、来年度、牡鹿半島の旧石巻市分は統合ということで、学校がなくなりますが、同じように海岸部を中心に既に統合された学校が多くあります。

これらの地域では、これまでも学校と地域が連携して、協働しての取組を長年積み重ねてきているところがあります。地域との連携というところで、統合された学校に活かしていただくということが必要だと思います。

次に、人的な配置に関して、一点目は、小学校の外国語教育改革に伴ってのALT配置の増員についてです。計画では、令和3年度、2名増やし15名に、令和4年度、5年度と16名に増員とのことでした。

時数増で国際理解教育の充実も含めて、多様な工夫に努めている学校の現状では、学習の充実のために増員は必要だと思います。

二点目は、けやき教室の指導員の継続配置です。不登校生徒の状況、発達障害の対応、訪問指導でも複雑であるものなど、深刻な状況が出てきていますので、より適切な対応をするためには増員は必要であると思います。

今後もコロナの中で先を見通すことが難しい状況が続くと思いますが、子どもたちにとって、今しかない、今身につけなければならないものがあるはずだと思います。

教育委員会のリーダーシップの下、学校、地域だけでなく多様な連携と協働の視点にして、子どもたちにとって安全安心な学校、そして行きたくなる学校づくりをお願いします。

吉 田 和 美 氏

コロナ禍の影響の大きかったこの2年間で、子どもたちの生活に様々な影響があったと思われます。

その中にはコミュニケーションが取りづらいという状況から活動が規制されたり、先輩方から後輩に代々受け継がれてきた伝統的なものが止まってしまった、我慢を強いられているなどネガティブな印象を多く持ちがちですが、ただ、その中でオンラインの普及であったり、学校の衛生環境の向上など、本当に先生方、学校に関わっていただく方々の御尽力で、工夫してできることを本当に模索しながら新たな取組を生み出すという、その前向きな対応から子どもたちが本当に多くのことを学び取ったのではないかなと感じています。

また、実際に取り組みされている事業について、いろいろなことを教えていただく機会をいただき新しい課題にどのように対応していくのか細やかに再検討され、対応していただいているということが分かり、改めて教育委員会の皆様並びに先生方の御配慮に保護者として感謝申し上げます。

このような規制の多い状況の中でも、成果指標が達成率80パーセントを超えているものもたくさんあり、子どもたちの興味関心を向上させることに御尽力いただいている前向きな取組を行っているところがこの成果に現れているのではないかと

感じました。

いろいろな資料を見ると取り組まれている事業が多岐にわたっており、大分、複雑化しているようにも感じました。

どの事業も、目的や成果が問われて工夫しながら取り組まれているということはよく理解できましたが、連携、協働、情報共有という、コミュニケーション規制されている中で難しい取組も本当に多かったと思います。

学校教育というのは、勉強に限ったことではないと思っていて、子どもたちの思いというのが尊重されるということが何より大切であってほしいし、今の子どもたちの現状、その閉塞感であったり、何とも歯がゆい思いをしています。私たち大人が育った子どもときと、今の子どもたちの置かれている状況は全く違っているということを、大人がまず理解する必要があると感じています。

情報が溢れているこの世の中に、今置かれている子どもたちが、どういうことを感じてどのような思いを持っているのかということに、大人がどのように寄り添えるのかということが非常に大切になってくるのではないかと思います。

頭ごなしに、何かを教えるということが、なかなか難しい時代となっていると思いますので、子どもたちとどのように信頼関係を築いていくのか、事業報告に出てきた問題、課題についても子どもたちと信頼関係を築くことでしか解決できないというような課題も多かったのではないかなと感じました。

石巻は、子どもの権利条例をいち早く施行したまちでもあります。

子どもの視点で、子どもが何を感じて、何を考えているのかということに今一度目を向けて、子どもも大人も一緒に学び合える社会実現に向けて御尽力いただきたいと思います。

また、子どもたちのために何かできないかと考える大人はとても多いです。

苦しい状況だからこそ教育委員会の皆様が中心となって、行政の枠や課ごとの枠にとらわれずに、地域企業や支援団体、NPO、地域住民、本当に子どもも大人も地域全体で知恵を出し合って、子どもたちが安心安全に学びを深められる社会環境の実現、新しい石巻モデルを構築していただきたいと思っておりますので、今までの考え方にとらわれず、子どもたちの意見を反映させたもので進めていただけると、子どもたちはいきいきと学校生活に取り組まれるようになるのではないかと感じています。

○ 事業ごとの意見について

点検及び評価の対象事業ごとに記載

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	1	事業名	サイエンスラボ事業				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	1 社会を生き抜く力の養成				
	基本施策	1 確かな学力の育成	1 確かな学力の育成				
	施策の展開	2 学習意欲の向上	4 指導方法の工夫・改善				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	新たな時代を創造する人材を育成する					
	施策の展開	広い視野を持つ人材をはぐくむ					
	事業名	サイエンスラボ事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H28	～	摘要		
事業目的							
児童生徒が科学への興味・関心をもち、問題解決の力や自然を愛する心情を育てるとともに、教員の理科指導力の向上をとおして、石巻市の理科教育の充実を図る。							
事業効果							
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然と関わりながら、科学や自然のおもしろさを感じ取らせることができる。 ・自ら学ぶ意欲、科学的な思考力の向上が図られ、学力の向上が期待できる。 ・教師の理科指導の不安が解消され、理科教育の充実が図られる。 							
現状と課題							
<ul style="list-style-type: none"> ・創造性豊かな人材育成のために、自然に親しみ、科学的思考力を高めることが必要である。 ・小・中学生の理科離れが進行している状況が見られる。 ・理科指導に関する教員への支援、相談体制の確立、理科指導力の向上策が急務である。 							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
科学巡回教室、親と子の科学教室の実施			実施				→
教材・教具の開発及び教員への提供			実施				→
学校・教員に対する相談活動・研修会の実施			実施				→
企業や研究機関との連携			実施				→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	科学巡回教室の開催回数	回	40	40	40	40	40
成果指標	授業が「分かる」、「だいたい分かる」と答えた児童生徒の割合 【(小学生の割合+中学生の割合)÷2】	%	85	85	85	85	85

実施状況及び評価(CHECK)

令和3年度の事業実施状況		<p>1 科学巡回教室は、「原子・分子の学習」「宇宙の学習」「科学実験」「ものづくり」等のプログラムで、19小学校、3中学校、けやき教室で実施した。コロナ禍により訪問中止となった小学校は3校あった。科学イベントは9小学校、6幼稚園、こども園で実施した。</p> <p>2 学校・教員に対する相談活動は、科学巡回教室の際に情報交換を行うとともに、夏季休業に開催した研修会では、原子分子のモデル作製研修を実施した。</p> <p>3 けやき教室でも科学イベントを実施した。</p> <p>4 企業と連携し、電子顕微鏡を用いた理科出前授業を実施した。</p>							
<p>目標の達成状況</p> <p>※評価は下記の「評価基準」により記載</p>	活動指標	指標名	科学巡回教室の開催回数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	回	40	40	40	40	40	B
		実績	回	42	45	41	39	36	
		達成率	%	105	112.5	102.5	97.5	90.0	
	指標名	授業が「分かる」「だいたい分かる」と答えた児童生徒の割合。【(小学生の割合+中学生の割合) / 2】							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	85	85	85	85	85	A
		実績	%	88	89	88	97.4	96.9	
		達成率	%	103.5	104.7	103.5	114.6	114.0	
【評価基準】		達成率が100%以上 達成率が60%以上80%未満 達成率が40%未満	・・・A ・・・C ・・・E	達成率が80%以上100%未満 達成率が40%以上60%未満 事業を実施できなかった	・・・B ・・・D ・・・F	総合評価		A	
取組の成果及び評価の理由		<p>小学校に加え、中学校、幼稚園についても幅広く科学巡回教室、科学イベントを開催した。楽しく分かりやすい授業により、受講した児童生徒からは楽しさ・理解度ともに高評価を得ている。夏季休業に開催した教員向け理科研修会は教員の理科指導力、教材作成技能の向上の一助となっている。</p>							
学識経験者からの意見		<p>【田中秀典氏】 この事業は、トピック的に実施するだけではなく、日常化するための努力を進めてほしい。そのためにはビジョンが必要である。現在の予算額では、各小学校全てで実施するのは無理であるので、予算確保も含めてそのような体制づくりを進めてほしい。</p> <p>【佐藤文夫氏】 科学的な感動、楽しみと驚きを体験できる重要な事業であるので、予算面で難しい状況ですが、引き続き続けて実施してほしい。また、教員に対する研修もより広げて充実してほしい。学校だけでは厳しいこともあるので、地域団体やNPO団体などと連携しながら教育のニーズに答えられるようにしてほしい。</p> <p>【吉田和美氏】 全ての学校で実施することが難しい場合、見ることができない子どもたちにどうすれば提供できるのか配慮する必要がある。ぜひ子どもの疑問や視点に気づいてサポートできる指導力の向上に期待する。また、授業にたくさんの地域の人を巻き込んで、子どもたちの疑問について一緒に考えられるような対応につなげてほしい。</p>							

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	学校や児童生徒から継続を望む声が寄せられているため、年齢層に合わせたプログラムの充実を図ること。						
今後の対応方針	科学巡回教室の開催校の拡大とプログラムの充実を図る。						
令和4年度の見込み	新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費 (決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)	5,152	4,999	5,062	4,892	5,373	

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	2	事業名	「心の教育」推進事業(いじめ、暴力行為の防止)					
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成						
	基本施策	2 豊かな心の育成						
	施策の展開	3 いじめ、暴力行為の防止に向けた取組の推進						
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち						
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する						
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ						
	事業名	いじめ・生徒指導問題対策事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要			
事業目的								
人間としてのより良い生き方を、主体的に追い求め実践していく児童生徒を育てる。								
事業効果								
人権教育を推進することで、児童生徒、保護者及び教職員の人権意識の高揚、児童生徒の道徳的実践力の向上が図られる。								
現状と課題								
児童生徒の規範意識やモラルの向上のため、心の教育の充実が求められる。道徳教育の充実を柱として人間としてのより良い生き方についての指導をしていく必要がある。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
いじめ生徒指導問題対策協議会の開催				実施				>
いじめ防止標語・心のメッセージ集の作成				実施				>
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値	
活動指標	いじめや生徒指導について対策会議を定期的に行っている学校数(小・中・高)	校	54	53	53	53	52	
成果指標	認知されたいじめの解消率(H30年度以降、継続事案分は除く)	%	100	100	100	100	100	

実施状況及び評価(CHECK)

令和3年度の事業実施状況		1 石巻市いじめ問題対策連絡協議会の実施（3回実施） 2 石巻市生徒指導問題対策会議の実施（3回実施） 3 いじめ・生徒指導問題対策に係る研修会の実施（いじめに関する講演会の実施、生徒指導対策についての講演会の実施） 4 「いじめ防止標語・心のメッセージ集」の作成・配布 5 「STOPいじめ！石巻市子どもサミット」の開催 6 いじめに係る重大事態に備え、第三者による調査委員会を設置、開催							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	いじめや生徒指導について対策会議を定期的に行っている学校数（小・中・高）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	校	54	53	53	53	52	A
		実績	校	54	53	53	53	52	
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	成果指標	指標名	認知されたいじめの解消率（目標値：継続事案分は除く）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	B
		実績	%	77.5	72.8	77.1	65.8	84.0	
		達成率	%	77.5	72.8	77.1	65.8	84.0	
【評価基準】 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		平成26年度に策定された「学校いじめ防止基本方針」により、教職員のいじめ防止に対する意識が向上した。また、組織としてのいじめ認知や解消の見立てについての研修を行ったことが、学校の細やかな取組とつながっている。 長期的に見取りを行い、丁寧に対応を行っている。							
学識経験者からの意見		【田中秀典氏】 いじめはどこでも起こりうることであり、教育委員会に任せるのではなく、学校長の責任の元にきちんとした指導体制を作らないといけない。また、活動指標や成果指標の目標値については、この事業にふさわしい指標で評価してほしい。 【佐藤文夫氏】 様々な取組により、教職員の意識や組織としてのいじめ認知度向上につながっており、教職員一人ひとりがアンテナを高くし、学校全体チームとなって取り組んでいる。今後も、時代の流れに対応した体制にすることで、相手の立場で考え、認め合い支えあって人間関係を作っていくように進めてほしい。 【吉田和美氏】 いじめは被害者に目が行きがちではあるが、加害者側に対しても些細な変化に気づき初期対応していく必要が求められている。いじめに対するアンケートについて、どのように問いただせば子どもたちの声を汲み取ることができるのか検討してほしい。問題に直面している子どもにどう寄り添うか、どのように対応するのか、その姿勢が問われていると感じている。子どもたちがどういう気持ちでいるのか、どのような考えなのか、寄り添って信頼関係を築いていくということに力を注いでほしい。							

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	いじめに対する児童・生徒の心の育成						
今後の対応方針	校内の研修会を継続実施することで、未然防止につながるいじめを生まない風土づくりの推進						
令和4年度の見込み	新規 <u>継続</u> (拡充 ・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費 (決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)	536	458	473	395	336	

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	3	事業名	国際理解教育推進事業					
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成						
	基本施策	5 現代社会に対応した教育の推進						
	施策の展開	1 国際理解教育・外国語教育の充実						
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐぐむまち						
	基本施策	新たな時代を創造する人材を育成する						
	施策の展開	広い視野を持つ人材をはぐぐむ						
	事業名	国際理解教育推進事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要			
事業目的								
小・中・高等学校及び幼稚園、こども園、けやき教室において、ALT（外国語指導助手）との授業を通して、外国語教育と国際理解教育の充実を図る。								
事業効果								
ALTが幼稚園から高等学校までの教育現場に配置され、また、コミュニティの行事等へ参加することにより、児童生徒及び地域の人々の外国語学習や国際理解教育の推進に大きな効果が期待される。								
現状と課題								
外国語教育の改革が進み、小学校5・6年の英語が教科化されたことから、ALTの人数を増やし、小学校での授業時数増加に対応できる体制を確保する必要がある。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
外国語教育及び国際理解教育の実施				実施				→
ALTの配置				実施				→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値	
活動指標	ALTの1施設当たりの年間平均訪問日数	日	49	53	53	53	53	
成果指標	ALTとの授業が楽しい生徒の割合	%	85	80	80	80	80	

実施状況及び評価(CHECK)

令和3年度の事業実施状況		市立幼稚園、こども園、市立小・中・高、適応指導教室の全59の学校(園)を15ブロックに分け、ALTを15名配置した。それぞれの配置校(園)において、担当教員とのチームティーチングが実践され、ALTとの授業が楽しいと感じる生徒の割合も、89%と高い値を示した。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	ALTの1施設当たりの年間平均訪問日数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	日	49	53	53	53	53	B
		実績	日	44.3	46.1	48.1	47.3	51.4	
		達成率	%	90.4	87.0	90.8	89%	96.9	
	指標名	ALTとの授業が楽しい生徒の割合(中学2年生)							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	85	80	80	80	80	A
		実績	%	75.8	77.5	89.2	89.0	88.9	
		達成率	%	89.2	96.9	111.5	111.3	111.1	
【評価基準】		達成率が100%以上 達成率が60%以上80%未満 達成率が40%未満	・・・A ・・・C ・・・E	達成率が80%以上100%未満 達成率が40%以上60%未満 事業を実施できなかった	・・・B ・・・D ・・・F	総合評価			
		B							
取組の成果及び評価の理由		新学習指導要領が施行され、小学校中学年で35時間の外国語活動、高学年で70時間の外国語科が完全実施となり2年が経過した。英語教育改革の趣旨を踏まえ、ALT自身が指導力向上への意識を高め、それぞれの所属校の外国語担当と連携しながら授業改善に努めている。また、教育委員会で主催している外国語指導助手配置事業説明会等の機会を生かし、ALTの有効活用について各校の外国語指導担当と情報交換を深めていることが、ALTとの授業が楽しい生徒の割合を高い水準で維持できている要因と捉える。							
学識経験者からの意見		【田中秀典氏】 民間業者ときちんと提携して、きめ細かい対応を少ない予算の中で効率的に行っている。異文化交流というのは英語を話すだけではなく、日本人同士の異文化の違いに対する理解も必要である。経費がかかる事業であるが、外国籍の方も多く来ている地域なので、日常的に広がっていくことを期待する。 【佐藤文夫氏】 外国語活動の実数増加、国際理解教育を含めた指導内容の充実に対応するためには、ALTの配置数を拡大することが必要である。厳しい予算ではあるが進めていただき、子どもたちのネイティブスピーカーとして英語が体験できる機会を増やしてほしい。そのためには、地域や国際交流団体と連携する必要があることから、教育委員会が支援してほしい。また、小学校の学習要領の改訂によって教科となったので、成果指標を小学校にターゲットを絞るなど考えてほしい。							

	<p>【吉田和美氏】 子どもたちは、ALTの授業について他文化に触れる機会として心から楽しんでいる。引き続き、先生方の声も含めて、一層子どもたちの関心が高まるように事業を実施してほしい。石巻にいる外国籍の子どもたちも増えており、その子どもたちとの交流も自分を深められる機会となるので、地域を巻き込んで事業展開を考えてほしい。また、地域の中に英語を話せる方がいると思うので、学校への地域ボランティアとして募ったり、地域交流団体の人たちをこの事業へ協力していただくよう求めていくことを検討してほしい。</p>						
課題・改善(ACTION)							
事業を進める上での課題	<p>新学習指導要領では、小学校での外国語の時数が増加し、指導内容もより実際のコミュニケーションを意識したものになる。小学校におけるALTのニーズが高まっている中で、本市においては1人のALTが4校程度担当しており、児童・生徒が常にALTの指導を受けられる状況とはなっていない。今後、小学校へのALTの配置数を増やし、一層の指導の充実を図っていく必要がある。</p>						
今後の対応方針	<p>ALTを増員し、児童生徒数が常にネイティブスピーカーの英語に触れる機会を増やすとともに、地域のイベント等へのALTの積極的な参加を促し、地域全体を巻き込みながら国際理解教育を推進していく。</p>						
令和4年度の見込み	<p>新規 <u>継続</u> (<u>拡充</u>) 縮小 休止 廃止 期間満了による終了</p>						
事業費(決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額(千円)	54,225	59,048	63,922	71,093	71,216	

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	4	事業名	特別支援教育支援員配置事業				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	6 特別支援教育の充実					
	施策の展開	1 学習支援体制の強化					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	特別支援教育支援員配置事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要		
事業目的							
障害のある児童生徒が在籍する通常学級及び当該児童生徒に支援員を配置し、学習指導や生活指導の充実と学校生活における安全を保障する。							
事業効果							
小・中学校の通常学級に在籍する特別な支援を必要とする発達障害児等の学校生活に対する意欲の喚起や学習等の能力の育成を図るとともに、学級担任の指導の充実につながる。							
現状と課題							
様々な障害のある児童生徒が通常学級に在籍し、学級担任は配慮しながら指導を行っているものの、担任単独で対応している場合が多く、当該児童生徒への指導や安全確保の面で不十分などところがある。より充実した支援を図るため、継続的に支援員配置拡充及び配置後の支援員の資質の向上を図る必要がある。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
特別支援教育支援員の小・中学校への配置			実施			→	
特別支援教育支援員研修会の実施			実施			→	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	特別支援教育支援員を必要とする小・中学校の充足率	%	100	100	100	100	100
成果指標	特別支援教育支援員配置に対する小・中学校の満足度	%	100	100	100	100	100

実施状況及び評価(CHECK)

令和3年度の事業実施状況		令和3年度は、小学校29校に72名、中学校14校に19名、計43校に91名の特別支援教育支援員を配置した。昨年度より3名多い配置である。各支援員は、校長をはじめ担任等の指示を受けながら、対象となる児童生徒のサポートに努めている。また、令和3年度は「一人一人の個性を生かす生涯発達支援」について研修会を行い、児童生徒理解や具体的な支援方法を深めることができた。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	特別支援教育支援員を必要とする小・中学校の充足率						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	C
		実績	%	59.0	45.3	48.9	50.0	64.0	
		達成率	%	59.0	45.3	48.9	50.0	64.0	
	指標名	特別支援教育支援員配置に対する小・中学校の満足度							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	A
		実績	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
【評価基準】 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F							総合評価		
							C		
取組の成果及び評価の理由		小・中学校の通常学級に在籍する発達障害の特性を示す児童生徒の在籍が年々増加している。令和3年度は、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒が昨年度より100人増加している。特別支援教育支援員を昨年度より3名増としたが、充足率は満たしていない。しかしながら、小・中学校で校内体制を工夫した支援員の活用を進めており、満足度は高い現状である。							
学識経験者からの意見		【田中秀典氏】 支援員の人数が足りないというよりも、そのような疑いがあり認定を受ける子どもが増えすぎているという現状がある。誰が教員になってもある程度の効果があげられるという時代となるには、まだ時間が必要である。 【佐藤文夫氏】 評価から見ると満足度の高い事業で、校内体制の工夫や努力が高い評価につながっていると考え。支援を要する児童生徒は、今後も増加が予想されており、学級担任の負担を軽減して学習を充実させるためにも、支援員の拡充を進めていく必要がある。また、支援員を増やすだけでなく、質の向上も必要であるので、研修の充実についても大事である。学校の指導体制、協力体制、支援員の資質など、教育委員会でしかできないことも進めてほしい。							

	<p>【吉田和美氏】 障害のある児童生徒が増えていることが課題ではなく、児童生徒に対応できる人員の確保ができていないことが課題であると感じる。子どもたちは何に困難を感じているのかに着目して対応できれば、引き続き質を維持できる事業になると思う。また、様々な障害に対応していく術を身に付けていくため、先生方だけではなく多方面の力を借りながらチャレンジしてほしい。また、支援員が相談できる場所を準備し、引き続き支援員の指導力の向上について、教育委員会、先生方の力を活用して進めていき、子どもたちのニーズに答えられるように尽力してほしい。</p>						
課題・改善(ACTION)							
事業を進める上での課題	発達がアンバランスだったり、社会性に困難を示したりする児童生徒が増えていることが課題である。また、保護者の支援員配置を求めるニーズも高い。						
今後の対応方針	今後も各関係機関が連携し、未就学段階から適切な早期支援を行うと共に、切れ目ない支援の継続と適切な就学支援、進路指導を進め、個別支援がなければ困難さが増大する児童生徒に対し十分な支援ができる体制整備を進めていく。						
令和4年度の見込み	新規 <u>継続</u> (拡充) 縮小 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費（決算額）	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額（千円）	80,152	86,326	90,439	109,236	118,198	

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	5	事業名	適応指導教室運営事業					
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成						
	基本施策	7 不登校児童生徒対策の充実						
	施策の展開	3 不登校児童生徒への支援の充実						
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち						
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する						
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ						
	事業名	適応指導教室運営事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	学校教育課	事業期間	H12	～	摘要			
事業目的								
不登校児童生徒個々の実態等に応じた生徒指導、学習指導、適応指導を行い、自立を促しながら学校への復帰を図る。								
事業効果								
不登校児童生徒にとって、学校と違う場所で指導員や友達と関わりながら、学習やいろいろな体験活動を行うことは、学校復帰に向けた大きな支援となっている。学校の行事等をきっかけに学校に部分登校したり、復帰したりした児童生徒もおり、効果は大きいものがある。								
現状と課題								
例年10名前後の通所児童生徒がおり、個々の実情に応じた指導がなされている。「石巻市子どものサポートハウス」が施設内に設置されたことから、不登校児童生徒への相談対応の総合センター的な役割を果たしている。発達に障害をもつ児童生徒のための支援の方法も検討する必要がある。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
通所児童生徒との教育相談、及び学校、保護者との連携				実施				→
児童生徒の実態等に応じた学習指導				実施				→
人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実				実施				→
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値	
活動指標	不登校児童生徒の保護者、担任教諭等との相談件数	件	100	100	100	100	100	
成果指標	通所児童生徒の再登校率（部分登校含む）	%	80	80	80	80	80	

実施状況及び評価(CHECK)

令和3年度の事業実施状況		<p>1 「石巻市こどものサポートハウス」を中心に、児童生徒はもちろん、保護者、学校とも相談しながら連携を図った。</p> <p>2 「けやき教室」では個々の児童生徒の実態に応じて時間割を作り、個別に学習指導を行いながら、外部講師を招いての一斉指導の時間も設定した。</p> <p>3 「体験活動」を年間指導計画に位置付け、他者との関わりを重視する活動を行った。</p>							
<p>目標の達成状況</p> <p>※評価は下記の「評価基準」により記載</p>	活動指標	指標名	不登校児童生徒の保護者、担任教諭等との相談件数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	件	100	100	100	100	100	C
		実績	件	89	66	81	77	74	
		達成率	%	89.0	66.0	81.0	77.0	74.0	
	成果指標	指標名	通所児童生徒の再登校率（部分登校含む）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	80	80	80	80	80	A
		実績	%	75.0	78.9	77.2	76.4	80.0	
達成率		%	93.8	98.6	96.5	95.5	100.0		
<p>【評価基準】 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B</p> <p>達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D</p> <p>達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F</p>							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		<p>相談が必要と思われる児童生徒や保護者に対する家庭や学校への訪問相談を実施し、担任教諭との相談も適宜行っていることから評価は「C」とした。適応指導教室に通所する児童生徒は部分登校も含め学校へ連続して登校しており、再登校率が目標値に達したため評価は「A」とした。</p>							
学識経験者からの意見		<p>【田中秀典氏】 成果指標が80パーセントを超えたのは、努力によるものである。この事業は、本当に地味なだけに、評価することが難しいと思うが必要な事業である。</p> <p>【佐藤文夫氏】 相談件数からすると、高い状況が続いており、訪問相談や担任教諭との相談等、適切な形で連携対応が図られている。今後、相談内容が更に多様化、複雑化していくことから、学校、各機関との連携を図ってより丁寧な対応を行ってほしい。けやき教室の再登校率の高さも、体験活動や外部講師などの再登校へ向けた適切かつ効果的な取組が、成果につながっている。予算的に難しい状況であるが、多様化、複雑化している状況に対応するために指導員の増員も必要なので、予算を確保するようお願いする。</p>							

	<p>【吉田和美氏】</p> <p>石巻の不登校児童生徒が増加している状況は、珍しいことではないと感じている。けやき教室で、誰かに認めてもらいたい、頑張ったねと声をかけてもらうことで、子どもはその場所に居場所を作るのだと思う。居場所は、空間的な場所だけではなく人だと思う。他者との信頼関係を築ければ、子どもたちは居場所を見つけられる。子どもたちが集団生活の中で自信を無くしてしまうという観点で考え、再登校につながるきっかけ作りに励んでほしい。この事業は、学校に行きたい子どもたちに配慮する取組なので、様々な形で子どもたちの希望に添えるように尽力してほしい。</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	「けやき教室」通所児童生徒の中で、発達に障害をもつ割合も高まっている。また、家から出られず「けやき教室」に通えない児童生徒に対する家庭や学校への訪問指導など、より手厚い支援を必要とする児童生徒が増加しており、対応する人員の不足が課題である。
今後の対応方針	「石巻市子どものサポートハウス」が適応指導教室「けやき教室」内にあるため、児童生徒の実態に応じた通所支援、訪問支援に臨機応変に対応できている。しかし、発達障害を抱えるため、個別の対応を必要とする児童生徒もいることから、今後もけやき教室の指導員を継続配置したいと考えている。
令和4年度の見込み	新規 継続 (拡充) 縮小 休止 廃止 期間満了による終了

事業費（決算額）	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額（千円）	5,202	5,255	5,156	7,738	8,519	

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	6	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	1 0 高校教育の充実					
	施策の展開	1 魅力あるカリキュラムの提供、教育内容の充実					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐぐむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	魅力ある高等学校教育を推進する					
	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H25	～	摘要		
事業目的							
桜坂高校の教育の三本柱である「品格教育」、「キャリア教育」、「学力保証」の推進及び充実に図り、生徒の進路希望や興味・関心、社会の動向に対応しながら、人間的な成長と品格の涵養に努め、石巻市の未来を担う人材の育成及び輩出を目指す。							
事業効果							
三本柱の推進及び充実により、桜坂高校の魅力がさらに向上することで、募集定員の確保につながるとともに、石巻市の未来を担う人材の育成が図られる。							
現状と課題							
令和4年度入学生は前年度と比較し21人増となり、定員充足率は85%となった。今後も魅力ある学校づくり事業を継続し、定員の確保に向けて、より一層教育活動を充実させ「学校の魅力の向上」を図るとともに、「学校の魅力発信」に努め、桜坂高校の魅力を石巻市内外に強力にPRしていく必要がある。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
桜坂高校の三本柱の推進に係る各種講座等の実施			実施			→	
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	事業の実施状況（各種講座予定回数に対する実施回数の割合）	%	100	100	100	100	100
成果指標	市立高校生が本市に住み続けたと思う割合	%	70	70	70	70	70

実施状況及び評価(CHECK)

令和3年度の事業実施状況	<p>生徒一人ひとりの将来の夢実現のために各方面から講師を招いて講座等を実施した。生徒を対象とした各種講座等については以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品格教育に関わる講座 … 3回 ・学力保証に係る講座 … 2回 ・キャリア教育に係る講座 … 5回 <p>特に、地域に貢献できる人材の育成を図るための事業とし、総合的な学習の時間・総合的な探究の時間（桜坂タイム）を活用し、全学年で実施した。</p>
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>目標の達成状況</p> <p>※評価は下記の「評価基準」により記載</p>	活動指標	指標名	事業の実施状況（各種講座予定回数に対する実施回数の割合）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	B
		実績	%	100.0	100.0	100.0	40.0	80.0	
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	40.0	80.0	
	成果指標	指標名	市立高校生が本市に住み続けたいと思う割合						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	70	70	70	70	70	B
		実績	%	51.6	61.8	50.6	53.9	56.2	
達成率		%	73.7	88.3	72.3	77.0	80.3		

<p>【評価基準】 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B</p> <p>達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D</p> <p>達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F</p>	総合評価
	B

取組の成果及び評価の理由	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業の実施率は低くなった。また、3年生を対象とした5月のアンケート調査において、石巻市への居住志向については（石巻市在住生徒）56.2%となり、昨年度よりわずかに上昇した。</p>
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学識経験者からの意見	<p>【田中秀典氏】 特に無し</p> <p>【佐藤文夫氏】 二つのコースの特色を進路や資格など将来に視点を当てて明確にし、発信していくことが大事である。また、その特色に探求活動を生かしていくことで大きな魅力になると考えられるので、もう少し探究活動に焦点を当てることを特色にすることも検討してほしい。探究活動は、小中学校との交流や町内会、地域住民、地元企業、NPO等の団体を巻き込んで、連携しながら、桜坂高校が地域の学校であることを出していくことが大事で、それによって地域社会からの理解を得ながら、探究活動を進めていくことが大事である。それが新しい生徒の確保にもつながるものと考えている。</p>
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>【吉田和美氏】 学校の本当の魅力が伝えられるのは、実際に学校に通っている生徒と卒業生にしかできないので、生徒自身で伝えていく取組を検討してほしい。中学生にとって二つのコースは、名前だけで理解することは難しいので、分かりやすい説明を行ってほしい。自分の希望に沿った就学、就職に到達することが子どもたちの励みになるので、大学との連携を推進することによって、子どもたちにアピールしていくことも重要なことであり、魅力を感じられるように、様々な取組を実施してほしい。</p>						
課題・改善 (ACTION)							
事業を進める上での課題	<p>石巻地区の中学校卒業生数は、平成31年から令和10年までの間に300人程度減少する見込みとなっている。令和4年度入試の石巻地区高校の倍率は0.87倍であった。この状況で定員を確保するには、より一層「学校の魅力発信」に努め、市内外からの入学生を増やす必要がある。また、コロナ感染対策を施しながら事業の展開工夫する必要がある。</p>						
今後の対応方針	<p>教育課程において両コースの特色を明確にし、地域社会を担う人材育成を目指すことを外部に発信する。さらに、地域と連携した探究活動を充実させることで「学校の魅力向上」を図るとともに、中学校・塾訪問、ホームページの充実、オープンキャンパス、学校公開、ポスターの発行等を通して「学校の魅力発信」に努める。</p>						
令和4年度の見込み	新規 <u>継続</u> (<u>拡充</u> ・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費 (決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)	2,476	3,812	3,324	2,181	3,129	

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	7	事業名	学校防災推進事業					
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1	社会を生き抜く力の養成		2	安全に安心して学ぶための環境づくり		
	基本施策	4	防災教育の充実		2	児童生徒の安全の確保		
	施策の展開	1	防災教育の充実		1	危機管理体制の整備		
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標							
	基本施策							
	施策の展開							
	事業名							
復興計画	施策大綱	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる						
	節	未来の人を育てるために						
	細節	子どものケアの実施						
	事業名	防災教育充実事業						
担当課	学校安全推進課	事業期間	H23 ~		摘要			
事業目的								
児童生徒の発達段階に応じた系統的防災教育を実践するとともに、学校防災の充実のために、学校と地域や関係機関等との連携強化を図る。								
事業効果								
児童生徒の実態及び学校の周辺環境に応じた防災教育が実践され、児童生徒の災害対応力が向上するとともに、学校と地域や関係機関等との連携による災害発生時の的確な緊急対応が可能となる。								
現状と課題								
東日本大震災では、大規模災害時における「公助」の限界が明らかとなり、「自助」、「共助」の力を向上させる防災教育が重要となっている。 今後、震災を体験していない児童生徒及び教職員が増えていく中で、いかに児童生徒らに震災の事実、教訓を語り継いでいくかが課題である。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
防災教育、避難訓練の実施				実施				→
防災教育副読本の作成と活用				実施				→
学校防災推進会議による地域と連携した学校防災の推進				実施				→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値	
活動指標	防災教育・避難訓練の実施 (副読本を用いた授業実施)	校	53	52	52	52	51	
成果指標	防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用した防災教育の実施率	%	100	100	100	100	100	

実施状況及び評価(CHECK)

令和3年度の事業実施状況	①学校防災の要である避難訓練は、各学校の立地条件に応じた災害を想定し全学校で実施している。また、緊急地震速報受信機設置校では、同受信機を活用したより実践的な避難訓練が実施されている。(小33校・中18校計51校) 避難訓練実績【小学校230回・平均6.96回】【中学校107回・平均5.94回】 ②防災教育副読本については、全ての学校で有効に活用されており、児童生徒一人ひとりが「自分の命は自分で守る」ことの意識を高めることができた。
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

目標の達成状況 ※評価は下記「評価基準」により記載	活動指標	指標名	防災教育及び避難訓練の実施(副読本を用いた授業実施)						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	校	53	52	52	52	51	A
		実績	校	53	52	52	52	51	
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	指標名	防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用した防災教育の実施率							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	A
		実績	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

【評価基準】達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F	総合評価
	A

取組の成果及び評価の理由	各学校では、立地条件や過去の災害状況等を踏まえた避難訓練が実施され、児童生徒らは円滑かつ迅速な避難行動をとることができている。また、緊急地震速報受信機を活用した訓練では、児童生徒はより臨場感を持って訓練に取り組むことができている。 防災教育副読本の活用については、発達段階に応じた系統的な指導により、児童生徒に必要な知識や能力を身に付けさせることができた。
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学識経験者からの意見	【田中秀典氏】 総合評価にAと自信を持って評価しており今の石巻の努力の成果である。まず、自分の命は自分で守るということは最低限のことで、次の段階で地域を守るといふことがある。小学生は、自分の命は自分で守るといふ領域でいいと思うが、例えば車椅子の人を誰が救うのか、中学生が複数人いれば車椅子を持ち上げられるので、このようなことを行える教育まで踏み込んでいいのではと考える。今後は、多くの事業を実効性あるものに近づけていくことが、最大の被災地である石巻の使命だと考える。 【佐藤文夫氏】 各学校で防災教育の必要性を重視して、児童生徒が副読本で身に付けた知識、能力を様々なケースを想定して、避難訓練を行い、実践していることがこの評価には表れている。実情に応じて計画、マニュアル等を改定していくことが大事で、柔軟な対応につながっていくので、機能する計画、マニュアル等であるためにチェック体制をお願いする。地域、行政と連携した組織的な避難訓練の実施も大事なことである。学校はその地域にあるわけで、行政が地域と学校の間に入って、地域と一体の形で避難訓練等を進めていくことが大事である。また、地域と一体となって進めている学校の情報を、他の学校に広げていくことも大事である。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【吉田和美氏】

避難訓練等で充実している活動になっているが、震災遺構を生で見る機会を設けることも、違う観点で防災の意識を高めることにもつながると感じた。地域主体で訓練を実施するときに、子どもたちが参加しやすくするために、学校の先生方や地域の人たちで、顔が見える関係性を作ってほしい。何か起きた際に地域の方たちが見守り、通学路沿いにある企業の人たちが子どもたちの安全を見守ることも防災だと思うので、様々な人の力を借りることにより、ますます石巻が安心、安全なまちになっていくと考える。自分の命は自分で守れる子どもたちが育ってきているので、引き続き防災教育に力を入れてほしい。

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	児童生徒が「自分の命は自分で守る」ことができるよう、災害時に主体的に行動する力を育成するためには、今後も継続して防災教育副読本を活用した防災教育の推進と避難訓練の実施が不可欠であり、地域における公助の面での指導も充実させる必要がある。						
今後の対応方針	防災教育副読本の内容については、新たな情報や実情を加味した改訂作業を毎年実施することで、副読本を活用した継続的な防災教育の推進を図る。						
令和4年度の見込み	新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費(決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額(千円)	4,238	4,684	7,484	3,726	3,937	

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	8	事業名	校舎等整備事業					
石巻市教育振興基本計画	施策目標	2 安全に安心して学ぶための環境づくり						
	基本施策	1 学校施設整備の充実						
	施策の展開	1 学校施設・設備の計画的な改築・改修整備						
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち						
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する						
	施策の展開	充実した教育を行える環境をつくる						
	事業名	小学校校舎老朽化対策事業・中学校校舎老朽化対策事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	学校管理課	事業期間	H27	～	摘要			
事業目的								
学校施設の適正な維持管理により、児童・生徒・園児の安全及び良好な学習環境の確保を図る。								
事業効果								
学校施設の適正な維持管理及び整備により、児童・生徒・園児の安全及び良好な学習環境の確保を図ることができる。								
現状と課題								
多くの学校施設が年数経過による劣化や老朽化しており、計画的な維持整備が必要な状況であるが、近年の厳しい財政状況下では、緊急性が低く高額な費用の修繕事業については、翌年度以降に繰り越されることから達成率の低下が見込まれる。修繕箇所を短期間で改築・大規模改修工事を行うことは極めて困難であるので、学校施設の雨漏り対策を優先的に行うと共に、維持管理及び整備事業を計画的に推進する必要がある。なお、令和3年度以降の小学校・中学校校舎老朽化対策については、学校の統廃合の状況を見据えながら、令和3年2月に策定した学校施設整備保全計画に基づき実施していく。								
事務事業の概要			年度別事業計画					
			H29	H30	R元	R2	R3	
校舎改修（外壁改修・屋上防水改修・トイレ洋式化・その他長寿命化改修、改築）※校舎増改築（校舎リース含む）をする場合もあり			実施				→	
指 標 名			単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	年度内事業完了数		校	6	3	3	3	3
成果指標								

実施状況及び評価(CHECK)

令和3年度の事業実施状況		<p>工事については、下記の学校について実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1校 釜小 (R2.9～R3.7) ・中学校1校 山下中 (R2.9～R3.7) <p>*令和2年度からの繰越事業のうち、釜小、山下中ともに令和3年7月に完了した。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症対策として、貞山小のトイレ改修工事を実施した。</p>							
<p>目標の達成状況</p> <p>※評価は下記の「評価基準」により記載</p>	活動指標	指標名	年度内事業完了数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	校	6	3	3	3	3	C
		実績	校	5	1	3	3	2	
		達成率	%	83.0%	33.3%	100.0%	100.0%	66.7%	
	成果指標	指標名	未設定						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値							
		実績							
		達成率							
<p>【評価基準】 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B</p> <p>達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D</p> <p>達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F</p>							総合評価		
							C		
取組の成果及び評価の理由		<p>老朽化が著しく進行している小学校1校、中学校1校について、校舎改修工事を実施した。</p> <p>令和元年度に設計を行い、令和2～3年度に工事の予定だった貞山小学校については、新型コロナウイルス感染症対策としてトイレ改修工事を実施したが、その他は未着工のため、総合評価を「C」としている。</p>							
学識経験者からの意見		<p>【田中秀典氏】</p> <p>校舎は多額の維持費がかかり、また校舎を建替えたり壊すときも費用がかかる。石巻は多くの学校があり、校舎の問題については早めに対策しないと、大規模改修を行う際には多額の予算がかかることとなる。統廃合にはメリット、デメリットがあるが、どこかで手を打たなければ無駄になる金となる。トイレの洋式化などは、校舎の改修に比べれば費用がかからずトイレが綺麗になり子どもたちは喜んでいる。</p> <p>【佐藤文夫氏】</p> <p>年度内事業完了数からCという総合評価は致し方ないと考える。自然災害も多くなっており厳しい状況が続いていることから、学校施設整備保全計画に沿って進めてほしい。</p>							

	<p>【吉田和美氏】 子どもたちの減少見通しによる計画により進められているが、統廃合の問題もあり計画どおりには進めにくいと思う。総合評価はCであるが、より専門的な観点が必要な事業であり、既に解決すべき課題は見いだされており、石巻市学校施設整備保全計画に基づき、子どもたちの安全、安心な環境整備に努めてほしい。実際に校舎が綺麗に整備されると、子どもたちは喜び自分たちの校舎に愛着を持って大事に使おうと感ずるので、事業を計画的に進めてほしい。</p>						
課題・改善(ACTION)							
事業を進める上での課題	<p>令和3年2月に策定した「石巻市学校施設整備保全計画」に基づき、学区再編(統廃合)計画の進捗を勘案しながら、適宜、実施予定校の見直しを行い、屋上防水工事・外壁防水工事・トイレ洋式化工事、内装や給排水設備等の工事を計画的に実施していく必要がある。</p>						
今後の対応方針	<p>整備手法や費用について定期的に見直しを図りながら、引き続き計画的な施設整備を推進していき、児童生徒等の安全を守り、安心して豊かな教育環境を提供する。</p>						
令和4年度の見込み	<p>新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了</p>						
事業費(決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額(千円)	863,026	497,372	722,391	653,393	572,955	

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	9	事業名	協働教育推進事業						
石巻市教育振興基本計画	施策目標	3 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり							
	基本施策	2 地域との連携・協働の強化							
	施策の展開	2 地域との連携・協働による学習活動の充実							
【他の計画における位置づけ】									
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち							
	基本施策	地域全体で子どもたちを育成する							
	施策の展開	地域・家庭の教育力を強化する							
	事業名	協働教育推進事業							
復興計画	施策大綱								
	節								
	細節								
	事業名								
担当課	生涯学習課	事業期間	H18	～	摘要				
事業目的									
「子どもたちの抱えるいじめ、不登校、学力や体力の低下等の諸問題の解決」並びに「生きる力をはぐくむ教育活動の充実・改善」という課題解決に向けて、「学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働し、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体ではぐくむ協働教育」を推進する。									
事業効果									
各学校において、学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働する多様な「協働教育」のプログラムが創出され、様々な実践が展開できる。このことにより、児童生徒の学習活動の質を高め、学ぶ意欲をはじめとする確かな学力の向上、多様な人々との関わりや体験を通じた豊かな心の育成が期待できる。また、協働教育への協力を呼びかける中で、新たな人材との出会いが生まれ、活動の充実につながることを期待できる。									
現状と課題									
令和3年度の実施校は、3年継続した5校が事業から外れ、新規5校を加えての計15校であった。各実施校では、新たな取組だけでなく、これまで取り組んできた活動を、保護者や地域の方々と協働して行うことができた。実施校全体での事業回数は430回、参加ボランティアの延べ人数は4,102人であった。また、協働教育支援会議における実施校の報告及び意見交換は、それぞれの小・中学校区の協働教育を改善・充実させるうえで有益な情報になっている。課題は、各小・中学校区に地域コーディネーターとしての資質を備えた人材の配置と育成である。									
事務事業の概要				年度別事業計画					
				H29	H30	R元	R2	R3	
協働教育推進委託事業				実施					▶
協働教育支援会議の開催（年2回） 協働教育フォーラムの開催				実施					▶
石巻市協働教育コーディネーター委嘱事業				実施					▶
学校支援地域コーディネーター委嘱事業				実施					▶
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値		
活動指標	協働教育推進委託事業による協働教育組織の再編・設置数		学校数	9	14	15	15	15	
成果指標	学校と地域による協働教育を実施している学校数		学校数	53	52	52	52	51	

実施状況及び評価(CHECK)

令和3年度の事業実施状況		①協働教育推進事業は、市内15校の小・中学校で実施。 ②協働教育支援会議は6月と2月の年2回開催予定であったが、2月は中止となり書面での報告となった。 ③協働教育コーディネーターは、市内全小学校の教職員を対象として計33人を委嘱(各校1名)、 ④市内各小・中学校区の地域住民等を対象として計16人を学校支援地域コーディネーターとして委嘱。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	協働教育推進委託事業による協働教育組織の再編・設置数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	学校数	9	14	15	15	15	A
		実績	学校数	9	14	15	15	15	
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	指標名	学校と地域による協働教育を実施している学校数							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	学校数	53	52	52	52	51	A
		実績	学校数	53	52	52	52	51	
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
【評価基準】		達成率が100%以上 達成率が60%以上80%未満 達成率が40%未満	・・・A ・・・C ・・・E	達成率が80%以上100%未満 達成率が40%以上60%未満 事業を実施できなかった	・・・B ・・・D ・・・F	総合評価		A	
取組の成果及び評価の理由		令和3年度は15校の小・中学校で事業を実施することができた。コロナ禍で思うような活動ができなかった学校もあったが、地域の住民や企業等と協働した教育が行われ、児童生徒にとって有意義な活動が行われた。							
学識経験者からの意見		【田中秀典氏】 学校に必要な支援がすぐ受けられるシステムだと思う。機能する仕組みを作ったことは最大の効果で、総合評価がAとなっているが、まさにそのとおりの評価であり、拡充させていくべき事業である。 【佐藤文夫氏】 各学校で工夫して可能な活動を進めることが、学校と家庭、地域との協働活動を継続させるために大切なことである。委託事業校を中心に実施校数が目標値を達成しており、総合評価も妥当であるが、大事なのは、委託事業後の日常的な活動の継続が大切である。それから、協働教育コーディネーターの資質の向上と、情報交流を進めていき、また、コーディネーターについては、学校と地域をうまく連携して発掘し、発掘したらそれを育成し、支援していくということが重要なので、組織的に継続して進めてほしい。また、行政側からの視点ではなく、自主的な取組に持っていくことが生涯学習の基本なので、そういう人を育ててほしい。							

【吉田和美氏】

コミュニティスクールの取組が進んでおり、事業の差別化が難しいと思う。連携ができる分野であるので、互いに高め合って進めてほしい。この活動で初めて地域に参加する、地域社会を自分たちで作っていくという経験をする機会としていろいろな方に参加していただけるよう間口を広げることにより更に発展すると思う。子どもを見守るという活動は参加しやすい事業なので、いろいろな人たちに子どもたちを見守る経験をしてほしい。今の石巻だからできることをみんなで考え、学校の先生方や教育委員会の力を活用して進めてほしい。また、コミュニティスクールと同じような事業が多くあるので、分かりやすい指針を示していくと参加しやすい状況になると思う。

課題・改善 (ACTION)

事業を進める上での課題	地域と学校との協働活動を推進していくためには、地域の人材発掘と活動推進の核となる学校支援地域コーディネーターの配置が必要である。また、その組織的・継続的な仕組みが必要である。
今後の対応方針	研修会や会議等の機会を活用しながら各学校の教職員及び学校支援地域コーディネーターと連携し、人材発掘も含めた各種情報の共有を図り、事業を進めていく。また、各小・中学校区で実践されている協働教育の取組について、今後も継続して発信していく。
令和4年度の見込み	新規 <u>継続</u> (拡充 ・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了

事業費 (決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)	1,717	2,417	2,404	2,143	2,111	

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	10	事業名	読書環境整備事業				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	4 豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進					
	基本施策	1 生涯学習の推進					
	施策の展開	2 学習環境の充実					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	心豊かな誇れるまち					
	基本施策	市民が個性を生かして輝ける機会をつくる					
	施策の展開	市民の主体的な学習活動を支援する					
	事業名	読書環境整備事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	図書館	事業期間	H20	～	摘要		
事業目的							
<p>図書館法第3条に基づき、必要な資料を収集し市民の利用に供する。公立図書館は「図書、記録その他必要な資料・情報を収集、整理、保存して、市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するとともに、市民の教育と文化の発展に寄与する」ことを目的としている。これらを踏まえ、市民の要望に応えるため、魅力ある図書資料や情報の収集・提供に努め、図書館サービスを推進する。</p>							
事業効果							
<p>貸出冊数は、震災のH23年度は167,048冊に激減した。その後回復傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響によりR2年度は216,994冊に減少、R3年度は新型コロナウイルス感染症の影響は続いているものの259,959冊となった。資料の収集については、東日本大震災や郷土に関する資料を積極的に収集・保存し、読書活動の推進については、乳幼児・児童への各種おはなし会の開催、また渡波、蛇田公民館での出張図書館の実施等により、館内外で利用促進に努め、市民の図書に親しむ環境作りに繋げる。</p>							
現状と課題							
<p>各分野において多様かつバランスの取れた資料構成となるよう配慮している。また、最新の社会情勢を知るための資料や利用ニーズに留意した資料を収集する必要がある。 読書環境を充実させる事により子どもの読書活動を推進し、活字離れや読解力低下傾向の緩和に努めなければならない。</p>							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
図書、記録その他の資料を収集・整理・保存の実施			実施				→
生涯学習の場として資料・情報を提供			実施				→
児童書及び子ども読書活動推進に係る図書の充実			実施				→
学校支援事業による学校図書室との連携			実施				→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	年間購入冊数	冊	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900
成果指標	年間貸出冊数	冊	317,000	317,000	317,000	317,000	317,000

実施状況及び評価(CHECK)

令和3年度の事業実施状況	①図書、記録その他の資料を収集・整理・保存の実施については、計画どおり資料を購入し、提供することができた。 ②生涯学習の場としての資料・情報提供については、学びの場として新刊図書情報提供や一般教養事業の開催により実施することができた。 ③児童及び子ども読書活動推進に係る図書の充実については、出版されている絵本や(児童)小説は重点的に購入することとし、図書の充実に努めた。 ④学校支援事業による学校図書館との連携については、図書館司書が講師を務める学校司書研修を2回(4日)実施した。
--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	年間購入冊数						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	冊	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	
		実績	冊	6,761	6,738	6,634	6,284	6,373	
		達成率	%	98.0	97.7	96.1	91.0	92.4	
	成果指標	指標名	年間貸出冊数						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	冊	317,000	317,000	317,000	317,000	317,000	
		実績	冊	280,433	290,726	258,645	216,994	259,959	
		達成率	%	88.5	91.7	81.6	68.4	82.0%	

【評価基準】 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F	総合評価
	B

取組の成果及び評価の理由	図書の年間貸出冊数は令和2年度に比べ大幅に伸びたものの、年間購入冊数及び貸出冊数いずれも目標値に達していないことから、更なる読書推進が必要と考え評価を「B」とした。
--------------	------------------------------------------------------------------------------------

学識経験者からの意見	【田中秀典氏】 貸出冊数も増えているが、さらに市民のニーズにあった図書を整備するため、図書の購入費用を確保してほしい。 【佐藤文夫氏】 コロナが継続している中で、成果指標である年間貸出冊数の目標達成率を上げており、市民のニーズに応じていくために、取り組まれていることを続けてほしい。購入冊数は、目標値の達成率をできるだけ上げてほしい。小さな子どもたちから、本をたくさん読むということは心の豊かさ、想像力、思考力を伸ばし、学力向上にもつながっていく。小中学校の本の不読率調の状況も捉えながら、どのようなニーズがあるか、学校図書館司書の方との研修等で把握して、具体的な学校支援の事業も進めてほしい。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【吉田和美氏】

図書は何冊も購入するにはためらってしまうという家庭も多いと思うので、もっと本に触れる機会を設けてほしい。子どもたちの読書不足は親としても感じており、多くのメディア媒体に触れている子どもたちが活字に興味を示すことは、ハードルが高くなっていると感じている。本の楽しさ、面白さを伝え続けていくことしか方法はないので、図書館から子どもたちに伝えていくことを続けてほしい。本を読むことの大切さを、親御さんにどのようなアプローチができるのかいろいろな視点で検討して、子どもたちの読書不足解消に取り組んでほしい。

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	人口1人当たりの資料費は、令和2年度で県内平均167.21円に対し、124.00円となっている。さらに、令和3年3月22日に雄勝分館が復旧し、6分館すべて開館したことから、資料費の増額についての検討が必要になっている。
今後の対応方針	資料の収集については、図書館の利用状況、市の財政状況及び人口規模等を勘案し検討していきたい。引き続き各事業の実施により、あらゆる世代の読書活動を支援していく。
令和4年度の見込み	新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了

事業費(決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額(千円)	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	